

「人」との関わり 「友だち」との関わり

副校長：武藤 浩之

- 子どもたちは様々な「人」との関わりを通して生活しています。学校の場合、幼小の教職員だけではありません。例えば登校時。短大校舎周辺を通学路としている子どもたちは、短大の先生と日常的に触れ合い、かつ、見守られています。本号ではその短大の塚先生に原稿を依頼して、玉稿を賜りました。右頁下に載せた「特別寄稿」です。家庭教育についての論に深く首肯してしまうのは、私だけではないでしょう。
- 「第二方面民生児童委員会」という、学期に二回、私が定期的に出席している会があります。民生委員の方々と学校側（二小、二中、附属小、附属中、福島成蹊中、聖母小）の代表で、児童・生徒の情報交換を行なう会です。以前、本校児童の交差点でのお辞儀が話題になったことがありました。本校は私学のため、居住地は第二方面に限らず多岐に亘ります。それでもこの地域の方々が、本校の子どもたちを見て下さっています。蛇足ながらそれは、自家用車による送迎の様子を見ている（見られている）ことでもあります。
- 「人」の例として、短大の先生、地域の方々の順に述べてきました。両者に共通するのは「大人」です。従って子どもたちは、直接的あるいは間接的に守られる立場にあります。一方、子どもたちが最も刺激と影響を受け、「人」との関わり方を直に学んでいくのは「友だち」です。複数の児童が集まれば、そこに学級という小集団ができます。自分以外の他者が集まるのですから、当然、摩擦や葛藤が生じます。これは「大人」も同じです。ゆえに学級は社会の縮図と言えます。その縮図の中で子どもたちは、少しずつ協調性や社会性を学んでいきます。「友だち」との関わりを通してです。自分が何かを学べば「友だち」も学ぶ。「友だち」が何かを学べば自分も学ぶ。「友だち」の成長は自分の成長。自分の成長は「友だち」の成長。そんな場面がたくさんあったであろう1学期も、残すところ3週間あまりとなりました。

新しいお友だち!!

○6月20日(水)、嬉しいことに新しいお友だちを迎えました。2年生の『 』さんです。よろしくお願いします。

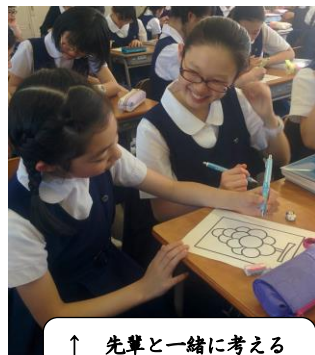
ご協力ありがとうございました

○6月2日(土)に、今年度1回目の資源回収とペルマーク作業を行ないました。
 ・資源…………… 円
 ・ペルマーク…………… 点
 ○ご協力に感謝しております。次回も何卒よろしくお願ひいたします。

【桜の聖母学院中学校体験】

6年1組担任：佐藤勇作

○6月14日(木)のことです、6年生は総合の時間に聖母中に行きました。「中学校体験」をするためです。先生方や先輩から、中学校生活についての話を聞いたり、実際に体験をしながらイメージを広げることができました。
 ○今回は、中学一年生と交流する時間を多く設けました。最初は緊張していた6年生ですが、先輩方が温かく迎えて下さり、打ち解けていきました。そして優しい先輩方に一年後の自分の姿を重ねていました。



↑ 先輩と一緒に考える
～数学の体験授業～

今年度は実施しません～夏休み中の「プール使用」～

○7月1日(日)～8月25日(日)まで、校庭に工事が入ります。東日本震災後に「表土改善工事」を行ないましたが、その掘り起こし作業です。これに伴いまして、夏休み中の「プール使用」が実施できなくなりました。何とも残念ですが、ご理解下さい。

ようこそ先輩 Part4 ～創立記念日朝会～

- 昨日は「創立記念日」でした。これに関わって、毎年、恒例になっている行事があります。「創立記念日朝会」です。今年は先週の金曜日、6月29日に行ないました。
- 講演会の講師に先輩を招く…。ということで、小見出しはテレビ番組のタイトルを借用して「ようこそ先輩」にしました。昨年に続き、これで4回目になるのでPart4です。
- 講師は齋藤 武蔵さん。平成17年度卒の第58回生です。聖母小だよりの特別寄稿(H28.1月号)や新プール完成時の模範水泳など、齋藤さんには既に、何度かお世話になっています。昨秋の火災避難訓練の際は、福島消防署勤務の「消防士」として来校。後輩たちの指導をされました。
- 演題は「消防士になった私から皆さんに伝えたいこと」でした。その制服姿で熱く語る齋藤さん。子どもたちも熱心に聞き入っていました。(武)



学院祭までの予定

- 早いもので、「学院祭」が少しずつ近づいて参りました。当日(9.30)までの予定は次の通りです。
- 今年度も、ご協力のほどよろしくお願い致します。

『協力費』納入期間

●7月 4日(水)～7月6日(金)⇒事務ポスト

『協力品』の受付期間

●8月27日(月)～9月1日(土)

手芸品…1品以上
 何でも…1品以上
 子ども…2品以上

⇒ 担任(提出用紙貼付)

その他の『協力品』

古本 食品
 制限リサイクル
 手芸、工作用材料

⇒ 担任(提出用紙貼付)

ミニコラムNo.38 特別寄稿 「家庭教育」と「創立者：聖マルグリット・プールジョアの精神」

桜の聖母短期大学 教授：堺 秋彦

- 私の一日は、桜の聖母学院小学校の子ども達との触れ合いから始まります。朝、掃き掃除をしながら通学中の子ども達と交わす「ごきげんよう!」の挨拶です。そして、子ども達の心の籠った挨拶は、その日の大きな活力になっています。
- 私は、平成元年から平成22年まで、千葉県の私立幼稚園で子ども達の笑顔に囲まれながら子ども達からたくさんことを学びました。その学びを得て現在は、短大で、「保育者」を目指す学生を養成するという立場で仕事をしています。そして、授業等を通して、保育者としてまた社会人としての基本は「挨拶」であるということを伝えています。「保育者」は、子ども達の心を育てる重要な役割を担います。子ども達が心の籠った挨拶ができる人間に育つためには、保育者がモデルになって心の籠った挨拶をすることが何よりも求められます。また、一方で、福島県の家庭教育に係る仕事に携わっています。こうしたことにより、今回は、家庭教育を推進する地域の方々や保護者の方々の前でお話をさせていただく内容の一部をコラムとさせていただきます。
- 近年、「家庭教育力が低下している」といった懸念の声があがっています。その要因の一つに、「親子が共に過ごす時間の減少」が挙げられており、その背景には、共働き世帯の増加等の家庭環境の変化があるといわれています。一方、家庭教育は「すべての教育の出発点」といわれており、家庭教育で目指されていることは、「しつけ」です。「しつけ」の目標は、子どもを、「社会生活の秩序を守り、自ら生活を向上させていくことのできる社会人に育て上げること」です。つまり、「自律心」を養い、「自立」させることが家庭教育の目指すべきものであるということがいえるのです。
- 人間は一人では生きていくことができません。主体である自分の周りには、必ず他者がいることを意識しなければなりません。そして、主体である自分が生きる精神と術を持ち、他者に迷惑をかけず、良心、マナーに基づく社会で生きていくための自らのルールを確立することが必要であると共に、他者に対する思いやりの気持ちを持つことが大切です。即ちそれは、「自分を愛するように隣人も愛しなさい」といった、創立者：マルグリット・プールジョアの精神です。そのような「自律心」が土台となり、他者と協調しながら、自らの生活を向上させていくことのできる「自立」した人間に育てることが家庭教育の目指すべきものであるといえ、また、今後どのように家庭環境が変化しようとも変わることがない原則であるといえるのではないのでしょうか。